

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0495400384		
法人名	医療法人社団清山会		
事業所名	グループホームはるかの杜	ユニット名:すずな	
所在地	仙台市太白区向山2丁目13-8		
自己評価作成日	令和 4年 1月 15日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	令和 4年 2月 25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「らしく生きる それぞれのLIFE」を事業所目標に掲げ、お一人おひとりの想いや声を大切に、やりたいことや希望の実現のために対話を繰り返しながら、関係性の構築に努めております。また、これまでの生活習慣や、好きなことに着目して、ホームに入居したからでなくなったということがないように、生活の中で楽しみを感じて頂けるよう、ご本人、ご家族のご意向を大切にしております。現在、コロナ禍で面会制限などご家族や地域の方との交流の機会は少なくなっておりますが、Zoom(テレビ電話)や電話、手紙などを使用しながら、ご家族とコミュニケーションを図る機会を定期的に設けております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

太白区の住宅地に在るホームの前には、仙台市営バス「向山高校前」バス停がある。向山小学校も隣接しており、事業所の夏祭りにテントを借用する等の交流がある。1階のはぎユニットは男性の入居者が多く、2階のすずなユニットは女性の入居者が多いのでそれぞれの雰囲気がある。本人の「本音の思い」を把握する努力をしたり、「認知症に伴う個性」を尊重しながら本人の思いを汲みとる等、入居者一人ひとりに向き合い支援をしている。「はるかの杜新聞」の「今月の笑顔大賞」コーナーに掲載されている入居者の写真は、いい表情で自然な笑顔が見られる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで身体や精神の状態に応じて満足出来る生活を送っている。 (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 グループホームはるかの杜)「ユニット名 すずな 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念、社是を念頭に置き、日々従事しています。法人の理念、社是に基づく事業所目標やユニット目標を掲げ、ミーティングや管理者との面談時に振り返りを行っています。理念の共有や理解に向けた取り組みを実施しています。	法人の理念「自立と共生の権利を尊ぶなら典型的な係わりを目指します」に沿い、「～らしく生きるそれぞれのLIFU」を目標に掲げている。生活していく上での、入居者本人の思いをじっくり聞き支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、定期的に町内会長さんや包括支援センターの方々とは電話などを通じて交流を図っております。近隣への散歩や買い物を通じて、地域の一員になれるよう交流できる機会を設けています。運営推進会議は、コロナ禍ということもあり、現在は実施できておりません。	コロナ禍にあり地域との交流の制約はあるが、町内会長や地域包括職員とは情報を共有している。1月に入居者の離設に伴う不幸な事故があった折、地域の親身な協力があり事業所では感謝している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所の様子を定期的に町内会長さんや地域包括にお伝えする中で、認知症の人の理解や支援方法をお伝えしております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍ということで、現在実施できておりませんが、定期的に町内会長さんや包括支援センターへ電話にて事業所の様子をお伝えしております。	定期的に書面で事業所の報告と「はるかの杜新聞」を送っている。町内会長から資源回収の情報を得て協力している。地域包括からは「包括だより」が郵送される。「避難訓練に地域の協力」について話し合っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	適宜、事業所の様子や活動を包括支援センターにお伝えしております。必要時は協力のお声がけをさせて頂いております。	仙台市の保護課と生活保護の方に関する手続きや本人の状況把握等のやり取りがある。法人経由で、宮城県内と仙台市内の介護施設でコロナ陽性者やクラスター発生時に、職員が応援に行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所での勉強会に身体拘束をしないための勉強会を行っています。また、安易に施錠をしないようにドアチャイムを設置するなどの工夫を行っています。	定期的に「身体拘束廃止委員会」を行っている。事前に提出された全職員の「グレーゾーンカード」を集計し分析する。話し合った内容をフィードバックして共有し、拘束のないケアを実践している。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所の勉強会で虐待防止の勉強会を行っています。また、虐待までとはいかない「不適切ケア」についても振り返りの機会を設けるなど、法人の取り組みを事業所の勉強会に活かしています。	会議で話し合った事柄を実践出来るよう努めている。馴れ合いになっていたり、スピーチロックが見られても、年代が違う職員間では言いにくいという場合は、管理者が個別に注意することもある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所内の勉強会にて成年後見制度について学ぶ機会を設けています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に契約内容、重要事項を一緒に読み合わせし、その都度でた疑問に答え不安なく入居していただいています。また、説明後にも疑問や不安に答えるようにしています。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来所時に入居者の方の日々の様子をお伝えするとともに、ご要望や意見を伺う機会を設けており、スタッフ皆で改善したり、共有を図っています。また玄関に意見箱を設置し、いつでも投書できるようになっています。	家族への連絡は電話ですが、メールでのやり取りもある。毎月送るフォトレターでも日常の様子を伝え感謝されている。法人が家族アンケートを実施し、関連のある事項はホームにフィードバックされる。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に2回個人面談を実施しています。また法人全体で実施するメンタルヘルスアンケートや仕事と職場のアンケートを通じてなかなか言えない意見や希望を拾い上げる機会を設けています。	1月に起きた離設の事故による職員のメンタル面の影響を考慮し、ホーム内で、また法人でもメンタルケアを行っている。「グレーゾーンカード」の中にも職員の率直な意見があり反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	チャレンジ制度を法人として設け、自ら取り組んでいける仕組みがあります。また、職場のアンケートを通じてスタッフの意見を反映できるように努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修への参加や法人外の研修に関しては、スタッフの希望、能力に応じて自由に参加できるようにしています。また1年目、2年目とフォローアップ研修があり、スタッフからの意見を聞く機会もあります。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在はコロナ禍のため中止しておりますが、地域よろず懇話会で、同業者やそれ以外の職種の方との交流の機会を図っています。また内部研修を通じて横の繋がりができるような仕組みになっています。	以前は法人主催で、法人内外のケアマネジャー対象の「地域よろず相談会」が行われていたが、今は中止している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご家族を含め、事前の面談やご本人の想いや困っていることを伺う機会を持ち、不安がなく入居できるように努めています。また信頼関係を構築できるようにご本人の立場にたって関わりを持つようにしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談から入居に至るまでの間、話し合いの場を多く持ち、ご家族の立場での不安な気持ちや悩み、要望を気軽に話せるようじっくりと時間を使って少しでも不安が軽減できるようお答えしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の情報をご家族や利用していた施設、病院スタッフ、ケアマネージャーから詳しくお聞きし、他職種で見極めを行い、助言を行っています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スタッフ、入居者という区別なく、お互いが困っていることに手を差し伸べられるような環境作りに努めています。皆で協力し、家事や買い物、得意なことを日々活かせるよう努めています。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍で面会制限はありますが、Zoom(テレビ電話)や電話などを通じ、コミュニケーションを図る機会を設けております。また、こまめに日々の様子を報告したり、受診時などの際は報告の連絡を行っています。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	事前に聞き取りを行い、馴染みの方との交流や関係が途切れないよう努めています。馴染みの人、場所に行く機会を定期的に設けております。(現在はZoomや電話を通じて行っております)	家族や友人宛てに年賀状を送ったり、電話をしている。「いつから面会できますか」と、友人からの問い合わせもある。入居前によくタクシーを利用していた方に、そのドライバーから入居後も気づかいの電話がある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	生活する中でお互いの性格や個性を尊重しながら一緒に活動しています。スタッフが間に入ることで交流が図れる方の場合は積極的に関わりが持てるよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	定期的に電話連絡するなど関係性が途切れることのないよう努めています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	相手のペースに合わせた生活が継続してできるよう柔軟性を持ち、その方の想いを尊重したお声かけを心掛けています。	入居時に家族の協力で作成した「バックグラウンドアセスメント」を参考にしたり、相性の良い職員との会話から把握することもある。表出が難しい方は、身振りを入れたやり取りで、甘いものが食べたいと分かることもある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族にもご協力頂きながら、バックグラウンドアセスメントを作成して頂くなど、これまでの生活習慣や生活環境の把握に努めております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の関わりの中で気づいた心身状態、変化などを共有する申し送りノートを作成し、スタッフ間で把握できるよう努めております。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族からの聞き取りや満足度を伺い、その方自身のケアプラン内の目標を達成できるようミーティング時に話し合い、実践、改善を行っています。	本人と家族の意向を尊重している。モニタリングをし、担当職員主体で評価をしている。看護師からの食事が摂れなくなった方へのアプローチの仕方や医療面のアドバイス等をプランに入れている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	「気づき」を申し送りノートやミーティング、日々の職員同士の会話の中で情報共有し、実践や改善点の把握に努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の状況を把握し、望むことが実現できるようすぐに対応しています。コロナ禍ではありますが看取り期における面会なども実施しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の公園、施設など散歩しながら周辺地域の話などを行い、近隣の方とも交流の機会が持てるようにしています。(現在は制限をしております)		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前に希望に沿ったかかりつけ医を選んでもいただいています。受診時や何かあった際にはご家族にすぐに連絡ができるようにしています。	9割の方が訪問医を受診している。受診結果を「受診報告書」に記録し共有している。看護師を職員として配置し、緊急時の24時間体制が整っている。訪問医以外の受診をしている入居者は、救急搬送の対応となる。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週3回看護師が勤務しており、その都度報告を行い情報を共有しております。看護師不在時もノートに記載し後にアドバイスももらうなどしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者には入院時にその方の情報を伝えていきます。また入院時や退院時に病院関係者に不安なことなどを相談し、助言をいただいています。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医と話し合う機会を設け、ご本人、ご家族の意向を確認した後に看取りの指針をお伝えし、共有を図っております。状況に応じ、地域の訪問看護ステーションと連携を図り、チームで支援しております。	入居時に「看取りに関する指針」を示して説明し、同意書を交わしている。段階に応じて医師との話し合いをしながら関係者間で連携し、今年度も2人の看取りをしている。コロナ禍ではあるが感染予防対策を徹底し、看取り期の家族の面会を実現している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事業所内で急変時や事故発生時の対応について勉強会を行っています。ユニットミーティング時も振り返りを行います。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の防災訓練の参加、避難場所の把握、事業所でも避難訓練の実施をしています。	4月と10月に日中と夜間を想定した地震と火災、9月には水難の避難訓練を実施している。反省点を次の訓練に活かしている。夜間の災害発生時に、地域の協力をお願いし了解された。具体化出来るよう期待したい。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	想いに耳を傾け、相手を理解しながら誇りや自尊心を損ねないようお一人お一人に合せた声掛けを行っています。	入居者の名前か名字にさんを付けて呼んでいる。排泄の失敗でトイレを利用する場合、他の方に気付かれない様そっと支援している。個人情報記録類は、鍵のかかる場所に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	相性も考慮しながらチームでお一人お一人との関係性を構築し、それぞれが自己表現、自己決定が自由にできるようスタッフ間で連携しながら、働きかけを行っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの起床や就寝時間、食べ物の好みも異なり、その方のペースに合わせた生活をしていただいています。スタッフの都合にならないように徹底しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服選びなどはご本人に決めて頂いております。すずなユニットは男性が多いため、毎朝髭剃りをしております。また男性の方の中には、髭を伸ばしている方もおり、おしゃれとして髭を整えております。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好きなもの、嫌いなものなどご意向を確認しながら好きな食事の提供をしています。また食事の内容にあった器を選定するなど、見た目や色合いなども工夫しております。行事の際の食事也希望を聞きながら、食事内容の選択ができるよう食事が楽しめるような工夫をしています。	刺身が一番好まれる。丼もの、パン等もメニューに入れている。元寿司職人だった入居者から、手ほどきを受けながら寿司パーティを楽しんだり、外国人の学生アルバイトから、自国の料理を振舞ってもらうこともある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスよく食事できるように献立を作成し、食事中に感想を伺っています。水分が少ない方には代わりになるようなヨーグルトやゼリーを召し上がっていただいています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は必ず歯磨き、入れ歯の方は毎晩洗浄剤を使用しています。口腔内の状態を常に観察し、歯科受診も行っていきます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄の状況を把握し、日中布の下着をはいていただく方が多い状況です。また排泄リズムを把握しながら自尊心を傷つけないようなお声かけを心かけています。	以前は布パンツを使用している方が多かった。排泄パターンで把握し、一人ひとりのタイミングや仕草を見逃さずに支援している。トイレに行くことが恥ずかしいと思う方には、周りに気付かれぬ配慮をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動や水分など一人ひとりの方に応じた体調管理をしています。できる限り下剤に頼らないように日々活動にお誘いしています。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた支援をしている	朝風呂がお好きな方の希望に沿ったり、時間などは関係なく入浴していただいています。ご本人の使い慣れたシャンプーなどを使用し、入浴を楽しんでいただいています。	脱衣所は寒くないように温めている。好みの入浴剤を入れたり、好きな音楽を聴きながら入浴している。湯船に入る時、2人介助で支援している方もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お部屋でゆっくり過ごしたい方など、ご本人のペースに合わせて1日を過ごして頂いています。無理なく休息できるようホールのソファも使用しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や副作用などスタッフ間で共有し、服薬チェックも必ずダブルチェックを行い、事故防止に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事手伝いなど好きなことや得意なことに集中できる時間を設けるなど役割や楽しみを通じ気分転換、リフレッシュをして頂けるような支援をしております。また、会話を楽めるようにそれぞれにあった話題を提供しております。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	食料品や日用品などの買い物や行きたいところ、思い出の場所など入居したことで行けないということがないように、多く外出の機会を設けています。ご本人、ご家族からも大変喜ばれています。(現在は外出を制限しております)	法人で決めている警告レベルに従って、外出支援をしている。昨秋レベルが低くなった時、秋保や松島にドライブし、紅葉や外食を楽しんだ。芋煮会はリクエストに応え、仙台風と山形風両方を賞味した。ホタテや海老の炭火焼も喜ばれた。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金庫には1人ずつポーチがあり、必要な分を持ってご希望に応じてご使用いただくようにしています。出納帳を作成し、毎月ご家族に報告しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人、ご家族のご意向がある際は都度、電話やZoomができるよう支援しております。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間に、毎月カレンダーを考えたり、ご利用者の皆さんで作成した作品を飾るなど、生活感や季節感を取り入れています。また、植物や生き物などのお世話をすることがお好きな方がおり、ホールに水槽があり金魚を飼っております。観賞されたり、餌をあげたりすることが楽しみの一つになっております。	床暖で心地よい温かさのホールで、日中を過ごしている入居者が多い。家事の手伝いをする方や、録画してあった「野球の試合」「笑点」等のテレビを楽しんでいる方もいる。大きい数字の手作りカレンダーと入居者の作品、季節毎の壁飾りで季節感を出している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりが居心地よく過ごしていただけるよう、気の合った方と近くの席で過ごしていただいたり、テレビがお好きな方は観やすい席にするなどして工夫をしています。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前自宅で使用していた物や写真などを置くことで使い慣れたものの継続や安心していただいています。またお部屋の清掃もご本人と一緒に、または許可を得て清掃しています。	家族写真を飾り、使い慣れている家具や仏壇と位牌等を置いている。趣味の楽器(ベース、ハーモニカ)を持参して、演奏を楽しんでいる方もいる。ベッド、エアコン、加湿器等はホームが用意している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	調理や洗濯干しなど出来ることは一緒に行い、歩行が不安定な方も安全に移動できるような環境作りを行っています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0495400384		
法人名	医療法人社団清山会		
事業所名	グループホームはるかの杜	ユニット名:はぎ	
所在地	仙台市太白区向山2丁目13-8		
自己評価作成日	令和 4年 1月 15日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	令和 4年 2月 25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「らしく 生きる それぞれのLIFE」を事業所目標に掲げ、お一人おひとりの想いや声を大切に、やりたいことや希望の実現のために対話を繰り返しながら、関係性の構築に努めております。また、これまでの生活習慣や、お好きなことに着目して、ホームに入居したからできなくなったということがないように、生活の中で楽しみを感じて頂けるよう、ご本人、ご家族のご意向を大切にしております。現在、コロナ禍で面会制限などご家族や地域の方との交流の機会は少なくなっておりますが、Zoom(テレビ電話)や電話、手紙などを使用しながら、ご家族とコミュニケーションを図る機会を定期的に設けております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

太白区の住宅地に在るホームの前には、仙台市営バス「向山高校前」バス停がある。向山小学校も隣接しており、事業所の夏祭りにテントを借用する等の交流がある。1階のはぎユニットは男性の入居者が多く、2階のすずなユニットは女性の入居者が多いのでそれぞれの雰囲気がある。本人の「本音の思い」を把握する努力をしたり、「認知症に伴う個性」を尊重しながら本人の思いを汲みとる等、入居者一人ひとりに向き合い支援をしている。「はるかの杜新聞」の「今月の笑顔大賞」コーナーに掲載されている入居者の写真は、いい表情で自然な笑顔が見られる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで身体や精神の状態に応じて満足出来る生活を送っている。 (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 グループホームはるかの杜)「ユニット名 はぎ 」

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念、社是を念頭に置き、日々従事しています。法人の理念、社是に基づく事業所目標やユニット目標を掲げ、ミーティングや管理者との面談時に振り返りを行っています。理念の共有や理解に向けた取り組みを実施しています。	法人の理念「自立と共生の権利を尊ぶなら 典型的な係わりを目指します」に沿い、「～らしく生きるそれぞれのLIFU」を目標に掲げている。生活していく上での、入居者本人の思いをじっくり聞き支援している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、定期的に町内会長さんや包括支援センターの方々とは電話などを通じて交流を図っております。近隣への散歩や買い物を通じて、地域の一員になれるよう交流できる機会を設けています。運営推進会議は、コロナ禍ということもあり、現在は実施できておりません。	コロナ禍にあり地域との交流の制約はあるが、町内会長や地域包括職員とは情報を共有している。1月に入居者の離設に伴う不幸な事故があった折、地域の親身な協力があり事業所では感謝している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所の様子を定期的に町内会長さんにお伝えする中で、認知症の人の理解や支援方法をお伝えしております。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍ということで、現在実施できておりませんが、定期的に町内会長さんや包括支援センターへ電話にて事業所の様子をお伝えしております。	定期的に書面で事業所の報告と「はるかの杜新聞」を送っている。町内会長から資源回収の情報を得て協力している。地域包括からは「包括だより」が郵送される。「避難訓練に地域の協力」について話し合っている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	適宜、事業所の様子や活動を包括支援センターにお伝えしております。必要時は協力のお声がけをさせて頂いております。	仙台市の保護課と生活保護の方に関する手続きや本人の状況把握等のやり取りがある。法人経由で、宮城県内と仙台市内の介護施設でコロナ陽性者やクラスター発生時に、職員が応援に行っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所での勉強会に身体拘束をしないための勉強会を行っています。また、安易に施錠をしないようにドアチャイムを設置するなどの工夫を行っています。	定期的に「身体拘束廃止委員会」を行っている。事前に提出された全職員の「グレーゾーンカード」を集計し分析する。話し合った内容をフィードバックして共有し、拘束のないケアを実践している。		
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所の勉強会で虐待防止の勉強会を行っています。また、虐待まではいかない「不適切ケア」についても振り返りの機会を設けるなど、法人の取り組みを事業所の勉強会に活かしています。	会議で話し合った事柄を実践出来るよう努めている。馴れ合いになっていたり、スピーチロックが見られても、年代が違う職員間では言いにくいという場合は、管理者が個別に注意することもある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所内の勉強会にて成年後見制度について学ぶ機会を設けています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に契約内容、重要事項を一緒に読み合わせし、その都度でた疑問に答え不安なく入居していただいています。また、説明後にも疑問や不安に応えるようにしています。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来所時に入居者の方の日々の様子をお伝えするとともに、ご要望や意見を伺う機会を設けており、スタッフ皆で改善したり、共有を図っています。また玄関に意見箱を設置し、いつでも投書できるようになっています。	家族への連絡は電話ですが、メールでのやり取りもある。毎月送るフォトレターでも日常の様子を伝え感謝されている。法人が家族アンケートを実施し、関連のある事項はホームにフィードバックされる。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に2回個人面談を実施しています。また法人全体で実施するメンタルヘルスアンケートや仕事と職場のアンケートを通じてなかなか言えない意見や希望を拾い上げる機会を設けています。	1月に起きた離設の事故による職員のメンタル面の影響を考慮し、ホーム内で、また法人でもメンタルケアを行っている。「グレーゾーンカード」の中にも職員の率直な意見があり反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	チャレンジ制度を法人として設け、自ら取り組んでいける仕組みがあります。また、職場のアンケートを通じてスタッフの意見を反映できるように努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修への参加や法人外の研修に関しては、スタッフの希望、能力に応じて自由に参加できるようにしています。また1年目、2年目とフォローアップ研修があり、スタッフからの意見を聞く機会もあります。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在はコロナ禍のため中止しておりますが、地域よろず懇話会で、同業者やそれ以外の職種の方との交流の機会を図っています。また内部研修を通じて横の繋がりができるような仕組みになっています。	以前は法人主催で、法人内外のケアマネジャー対象の「地域よろず相談会」が行われていたが、今は中止している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご家族を含め、事前の面談やご本人の想いや困っていることを伺う機会を持ち、不安がなく入居できるように努めています。また信頼関係を構築できるようにご本人の立場にたって関わりを持つようにしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談から入居に至るまでの間、話し合いの場を多く持ち、ご家族の立場での不安な気持ちや悩み、要望を気軽に話せるようじっくりと時間を使って少しでも不安が軽減できるようお答えしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の情報をご家族や利用していた施設、病院スタッフ、ケアマネージャーから詳しくお聞きし、他職種で見極めを行い、助言を行っています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スタッフ、入居者という区別なく、お互いが困っていることに手を差し伸べられるような環境作りに努めています。皆で協力し、家事や買い物、得意なことを日々活かせるよう努めています。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍で面会制限はありますが、Zoom(テレビ電話)や電話などを通じ、コミュニケーションを図る機会を設けております。また、こまめに日々の様子を報告したり、受診時などの際は報告の連絡を行っています。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	事前に聞き取りを行い、馴染みの方との交流や関係が途切れないよう努めています。馴染みの人、場所に行く機会を定期的に設けております。(現在はZoomや電話を通じて行っております)	家族や友人宛てに年賀状を送ったり、電話をしている。「いつから面会できますか」と、友人からの問い合わせもある。入居前によくタクシーを利用していた方に、そのドライバーから入居後も気づかいの電話がある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	生活する中でお互いの性格や個性を尊重しながら一緒に活動しています。スタッフが間に入ることで交流が図れる方の場合は積極的に関わりが持てるよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	定期的に電話連絡するなど関係性が途切れることのないよう努めています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	相手のペースに合わせた生活が継続してできるよう柔軟性を持ち、その方の想いを尊重したお声かけを心掛けています。	入居時に家族の協力で作成した「バックグラウンドアセスメント」を参考にしたり、相性の良い職員との会話から把握することもある。表出が難しい方は、身振りを入れたやり取りで、甘いものが食べたいと分かることもある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族にもご協力頂きながら、バックグラウンドアセスメントを作成して頂くなど、これまでの生活習慣や生活環境の把握に努めております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の関わりの中で気づいた心身状態、変化などを共有する申し送りノートを作成し、スタッフ間で把握できるよう努めております。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族からの聞き取りや満足度を伺い、その方自身のケアプラン内の目標を達成できるようミーティング時に話し合い、実践、改善を行っています。	本人と家族の意向を尊重している。モニタリングをし、担当職員主体で評価をしている。看護師からの食事が摂れなくなった方へのアプローチの仕方や医療面のアドバイス等をプランに入れている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	「気づき」を申し送りノートやミーティング、日々の職員同士の会話の中で情報共有し、実践や改善点の把握に努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の状況を把握し、望むことが実現できるようすぐに対応しています。コロナ禍ではありますが看取り期における面会なども実施しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の公園、施設など散歩しながら周辺地域の話などを行い、近隣の方とも交流の機会が持てるようにしています。(現在は制限をしております)		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前に希望に沿ったかかりつけ医を選んでもいただいています。受診時や何かあった際にはご家族にすぐに連絡ができるようにしています。	9割の方が訪問医を受診している。受診結果を「受診報告書」に記録し共有している。看護師を職員として配置し、緊急時の24時間体制が整っている。訪問医以外の受診をしている入居者は、救急搬送の対応となる。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週3回看護師が勤務しており、その都度報告を行い情報を共有しております。看護師不在時もノートに記載し後にアドバイスをもらうなどしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者には入院時にその方の情報を伝えていきます。また入院時や退院時に病院関係者に不安なことなどを相談し、助言をいただいています。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医と話し合う機会を設け、ご本人、ご家族の意向を確認した後に看取りの指針をお伝えし、共有を図っております。状況に応じ、地域の訪問看護ステーションと連携を図り、チームで支援しております。	入居時に「看取りに関する指針」を示して説明し、同意書を交わしている。段階に応じて医師との話し合いをしながら関係者間で連携し、今年度も2人の看取りをしている。コロナ禍ではあるが感染予防対策を徹底し、看取り期の家族の面会を実現している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事業所内で急変時や事故発生時の対応について勉強会を行っています。ユニットミーティング時も振り返りを行います。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の防災訓練の参加、避難場所の把握、事業所でも避難訓練の実施をしています。	4月と10月に日中と夜間を想定した地震と火災、9月には水難の避難訓練を実施している。反省点を次の訓練に活かしている。夜間の災害発生時に、地域の協力をお願いし了解された。具体化出来るよう期待したい。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	想いに耳を傾け、相手を理解しながら誇りや自尊心を損ねないようお一人お一人に合せた声掛けを行っています。	入居者の名前か名字にさんを付けて呼んでいる。排泄の失敗でトイレを利用する場合、他の方に気付かれない様そっと支援している。個人情報記録類は、鍵のかかる場所に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	相性も考慮しながらチームでお一人お一人との関係性を構築し、それぞれが自己表現、自己決定が自由にできるようスタッフ間で連携しながら、働きかけを行っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの起床や就寝時間、食べ物の好みも異なり、その方のペースに合わせた生活をしていただいています。スタッフの都合にならないように徹底しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その方のお好きな色の把握や、スタイルを事前に伺い、おしゃれができるようにしています。また月1回散髪やネイルケアを行っています。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その方の好みを伺いながら献立を作成しています。食事の準備、片付けも男性、女性関係なくお手伝いしていただいています。(食事は現在、一緒に召しあがっております)	刺身が一番好まれる。丼もの、パン等もメニューに入れている。元寿司職人だった入居者から、手ほどきを受けながら寿司パーティを楽しんだり、外国人の学生アルバイトから、自国の料理を振舞ってもらうこともある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスよく食事できるように献立を作成し、食事中に感想を伺っています。水分が少ない方には代わりになるようなヨーグルトやゼリーを召し上がっていただいています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は必ず歯磨き、入れ歯の方は毎晩洗浄剤を使用しています。口腔内の状態を常に観察し、歯科受診も行っています。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄の状況を把握し、日中布の下着をはいていただく方が多い状況です。また排泄リズムを把握しながら自尊心を傷つけないようなお声かけを心かけています。	以前は布パンツを使用している方が多かった。排泄パターンで把握し、一人ひとりのタイミングや仕草を見逃さずに支援している。トイレに行くことが恥ずかしいと思う方には、周りに気付かれない配慮をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動や水分など一人ひとりの方に応じた体調管理をしています。できる限り下剤に頼らないように日々活動にお誘いしています。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた支援をしている	朝風呂がお好きな方の希望に沿ったり、時間などは関係なく入浴していただいています。ご本人の使い慣れたシャンプーなどを使用し、入浴を楽しんでいただいています。	脱衣所は寒くないように温めている。好みの入浴剤を入れたり、好きな音楽を聴きながら入浴している。湯船に入る時、2人介助で支援している方もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お部屋でゆっくり過ごしたい方など、ご本人のペースに合わせて1日を過ごして頂いています。無理なく休息できるようホールのソファも使用しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や副作用などスタッフ間で共有し、服薬チェックも必ずダブルチェックを行い、事故防止に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事手伝いなど好きなことや得意なことに集中できる時間を設けるなど役割や楽しみを通じ気分転換、リフレッシュをして頂けるような支援しております。また、会話を楽しくするためにそれぞれにあった話題を提供しております。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	食料品や日用品などの買い物や行きたいところ、思い出の場所など入居したことで行けないということがないように、多く外出の機会を設けています。ご本人、ご家族からも大変喜ばれています。(現在は外出を制限しております)	法人で決めている警告レベルに従って、外出支援をしている。昨秋レベルが低くなった時、秋保や松島にドライブし、紅葉や外食を楽しんだ。芋煮会はリクエストに応え、仙台風と山形風両方を賞味した。ホタテや海老の炭火焼も喜ばれた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金庫には1人ずつポーチがあり、必要な分を持ってご希望に応じてご使用いただくようにしています。出納帳を作成し、毎月ご家族に報告しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人、ご家族のご意向がある際は都度、電話やZoomができるよう支援しております。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間に、毎月カレンダーを考えたり、一緒に写った写真を飾ったり、皆で作成した作品を飾るなど、生活感や季節感をとりいれています。	床暖で心地よい温かさのホールで、日中を過ごしている入居者が多い。家事の手伝いをする方や、録画してあった「野球の試合」「笑点」等のテレビを楽しんでいる方もいる。大きい数字の手作りカレンダーと入居者の作品、季節毎の壁飾りで季節感を出している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりが居心地よく過ごしていただけるよう、気の合った方と近くの席で過ごしていただいたり、テレビがお好きな方は観やすい席にするなどして工夫をしています。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前自宅で使用していた物や写真などを置くことで使い慣れたものの継続や安心していただいています。またお部屋の清掃もご本人と一緒に、または許可を得て清掃しています。	家族写真を飾り、使い慣れている家具や仏壇と位牌等を置いている。趣味の楽器(ベース、ハーモニカ)を持参して、演奏を楽しんでいる方もいる。ベッド、エアコン、加湿器等はホームが用意している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	調理や洗濯干しなど出来ることは一緒に行い、歩行が不安定な方も安全に移動できるような環境作りを行っています。		